

## 長野県食と農業農村振興審議会松本地区部会 議事録

日時：令和4年10月7日（金）10:00～12:00

場所：松本合同庁舎 5階 502号会議室

### ◆出席委員 8人

百瀬 茂敏	委員	農業経営者協会松筑支部長
降旗 道子	委員	栄養士会中信支部
田中 悦郎	委員	松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長
中村 洋子	委員	安曇野市農業委員
上條信太郎	委員	中信平土地改良区連合理事長、長野県梓川土地改良区理事長
山崎 岳志	委員	安曇野市農林部農政課長
村田 鋭太	委員	山形村産業振興課長
原 武彦	委員	松本市公設卸売市場協議会会長、(株)R&Cながの青果松本支社長

### ◆開会

【三田毅（松本農業農村支援センター所長）】

定刻になりましたので、ただいまから、長野県食と農業農村振興審議会松本地区部会を開催いたします。

私は、松本農業農村支援センター所長の三田と申します。議事が始まるまでの間、進行を務めさせていただきますので、よろしく申し上げます。

それでは、開会に当たり、松本地域振興局草間局長から御挨拶を申し上げます。

### ◆松本地域振興局長あいさつ

【草間康晴（松本地域振興局長）】

松本地域振興局長の草間康晴でございます。

本日は本年度2回目の食と農業農村審議会松本地区部会を開催しましたところ、委員の皆様には御多用の中、御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

また日頃より委員の皆様には、それぞれの御立場で農業の振興、また農村の発展に格別な御理解と御協力を賜り、重ねてお礼申し上げます。

私たちの暮らし、あるいは農業農村を取り巻く環境も同様でございますが、新型コロナウイルス感染症、物価高騰、気候変動に伴う災害の多発化・激甚化、また今後確実に見込まれる人口減少と、それに伴う人手不足など、多くの課題に直面しております。

新型コロナウイルスは、現在ピークから減少しておりますが、まだ収束は難しい状況の中で、社会経済活動をコロナ前の数字にもどしていくという取組を進めていく必要があると考えております。

また物価高騰につきましても、県におきまして「長野県価格高騰緊急対策【第二弾】」を策定し、急激な原油価格・物価高騰等により影響を受けている皆様への支援を拡充することとし、農政部関係におきましては、肥料、飼料、資材及び燃油価格の高騰対策に関する事業につきまして、9月議会の議決を経た後、実施をしていくこととしています。

今後も社会の動向等に注視しながら、引き続き現場に寄り添った対応をしてまいりたいと考え

ております。

さて、本日の会議では、初めに前回の部会で委員の皆様からいただきました御意見、御提言の項目について回答させていただきます。

その後、次期長野県食と農業振興計画の松本地域の発展方向につきまして、現時点での案をお示しし、皆様から忌憚のない御意見、御提言をいただきたいと思っております。

この計画及び松本地域の発展方向は、今後5年間の食と農業農村に関する施策の指針となるものでありますので、目指す姿を明確にし、それを達成すべく重点的な取組や、具体的な施策を決めてまいりたいと考えております。

皆様方からいただきました御意見、御提言を踏まえ、今年度中に新しい計画を策定してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【三田毅（松本農業農村支援センター所長）】

ありがとうございました。

続いて田中部会長、御挨拶をお願いします。

#### ◆部会長あいさつ

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会長）】

部会長の田中悦郎でございます。

今朝、温度計を見ますと、時期を先取りしたような14℃という大変寒い朝でした。

会議の前に百瀬委員と会話する中で、米は豊作基調という話があったようですが、実際に収穫してみると籾が細く、収量が少ないとのことでした。

また、ぶどう農家の話では、ナイヤガラ、コンコード、ナガノパープルにおいて、雨による裂果が多く、また全体的に粒張りが悪いとのことでした。

地域によって状況は違うと思われませんが、それぞれの秋を迎えている状況です。

さて、我々農家は、それぞれ日々仕事をしてはいますが、振興局の職員の皆さんと話ができる機会はほとんどなく、このように率直な意見交換ができる機会は大変貴重だと思っております。

本日は、前回の部会で委員の皆様から御意見、御提言のあった、第3期長野県食と農業農村振興計画の計画目標達成に向けた取組に関する回答と、次期長野県食と農業農村振興計画の策定について、事務局から説明があります。

委員の皆様は、それぞれの分野で先見性・専門性の高い方々でございますので、農業・農村対策への具体的なアイデアや、より効果的な実践手法などについて、御専門の立場から、建設的な御意見・御提言をいただきますようお願い申し上げますとともに、円滑な議事進行に御協力をお願いいたします。

【三田毅（松本農業農村支援センター所長）】

ありがとうございました。

次に委員の出席状況の確認をさせていただきます。

委員総数10名の内、8名の委員の御出席をいただいております、委員の過半数の出席となりますので、「設置規程」第4の（5）により、この会が成立していることを御報告します。

なお、本部会は「設置規程」第4の（7）により、公開とさせていただきます。

また、会議の内容については、取りまとめの上、11月に予定されている県の審議会に報告するとともに、議事録を地域振興局のホームページに掲載させていただきますので御了承をお願いします。ここで資料の確認をさせていただきます。

お手元に「会議次第」「資料1」「資料2」「参考資料」の4種類用意させていただきました。不足の資料がありましたらお知らせください。

なお、本日の会議は、12時までの2時間を予定しておりますが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、11時30分頃を目途に閉会したいと考えております。

そのほか、感染対策として、換気のため窓、扉を開放させていただきます。御不便をおかけしますが、御協力のほどよろしく願いいたします。

それでは、早速会議事項に入りたいと思います。

議長は「設置規程」第4の(3)により部会長が当たることとなっておりますので、田中部会長、よろしくをお願いします。

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

それでは、会議に入りたいと思います。

はじめに、会議事項の(1)第3期長野県食と農業農村振興計画の目標達成に向けた取組について事務局から説明をお願いします。

#### ◆会議事項

(1) 第3期長野県食と農業農村振興計画の目標達成に向けた取組について

【三田毅（松本農業農村支援センター所長）】

それでは資料1を御用意ください。

1ページをご覧ください。

まず、三村委員から御提言のあった「行政の枠を越えた担い手育成組織の取組」についてです。南信州・担い手就農プロデュースは、新規就農者のフォロー体制を整えることを目的として、平成29年に設立された南信州地域の組織体です。

担い手の確保育成に関する様々な事業が展開され、南信州管内で情報共有し、地域全体が連携しています。

この内容について、松本地区新規就農促進連絡会で情報共有し、当地域に適した新規就農者確保の体制整備について検討してまいります。

続いて、三村委員、上條委員から御提言のありました「親子間の経営継承」についてです。

現在、農業高校等に対して、就農ガイダンスを開催し、就農意欲向上について努めるとともに、農業経営者協会と南安曇農業高校との交流会の開催を支援しているところです。

また、経営相談会等の中で、事業継承に関する相談に対応しています。

あわせて、家族経営協定の推進から円滑な継承を進めています。

施策については、担い手育成基金の助成事業メニューの中で、親元就農した場合、1人当たり30万円を助成する事業が位置付けられています。

また、国庫事業の「新規就農者育成総合対策」の「経営発展支援事業」では、要件が整えば、補助金を活用することが可能です。

このように、現状の取組や、施策等を最大限に活用して、円滑に親元就農ができるよう支援して

まいります。

2ページをご覧ください。

上條委員から御提言のありました「就農情報発信」についてです。

県では、就農支援情報の一元的な発信として「デジタル農活信州」というホームページを開設し、情報発信力の強化に努めています。

一方で、受入体制の整備も重要であることから、関係機関で情報を共有し、改善を図っているところ です。

今後も、就農相談会への参加等、積極的に取り組んでまいります。

3ページをご覧ください。

まず、三村委員から御提言のありました「高密度栽培におけるトレリスの倒壊対策」についてです。

県では、技術者向けにトレリス倒壊対策の講習会を実施しています。

それを受け、個別巡回、現地指導会及び研修会で情報提供するとともに、信州農業生産力強化対策事業等、補助施策の活用について支援してまいります。

続いて、上條委員から御提言のありました「施設整備に関する施策」についてです。

この課題は、産地生産基盤パワーアップ事業、強い農業づくり総合支援交付金、農地利用効率化等支援交付金及び担い手確保経営強化支援事業等、補助施策の活用について支援してまいります。

続いて、山崎委員から御提言のありました「たい肥の悪臭対策」についてです。

当地域は、畜産業が盛んな総合的な産地であり、資源循環型農業の推進に伴う堆肥の需要が見込まれるため、「家畜排せつ物の利用の促進を図るための長野県計画」に沿った堆肥生産や、生活環境への配慮が求められています。

現在、関係機関が連携し、良質で環境に配慮した、たい肥生産に関する技術の支援をしているところ です。

今後も、強い農業づくり総合支援交付金、畜産クラスター事業等、補助施策の活用や、適正なたい肥生産に係る支援に努めてまいります。

続いて、三村委員から御提言のありました「飼料用米の取組」についてです。

当地域における令和3年度の飼料用米作付面積は171.6haで県全体の47%を占めています。

また、当地域における令和4年度の飼料用米の利用を希望する畜産農家が3者あり、年々利用希望数量は増加しています。

今後も、水田活用の直接支払交付金の活用を周知するとともに、生産面積の拡大と、利用希望者の掘り起こしに努めてまいります。

4ページをご覧ください。

降旗委員から御提言のありました「大豆生産に係る補助」についてです。

当地域における令和3年度の大豆作付面積は878haで県全体の43.7%を占めています。

大豆は、食料自給率の向上や穀物複合経営の安定化を図る上で非常に重要であり、積極的に推進する必要があります。

今後も、水田・麦・大豆産地生産性向上事業等、補助施策の活用について支援するとともに、畑作物の直接支払交付金、水田活用の直接支払交付金の活用を周知しながら、生産面積の拡大推進に努めてまいります。

5ページをご覧ください。

まず、上條委員から御提言のありました「施設改修の予算確保」についてです。

第3期食と農業・農村振興計画では、農業用水の安定供給を図るため、農業水利施設の機能診断を行い、適切な管理・保全のために必要な長寿命化計画の策定を推進し、管理者の要望を受け計画的な更新整備を進めてきました。

第4期計画においても引き続き、水管理の省力化と用水の安定供給のため、計画的に施設の更新を推進してまいります。

同じく上條委員から御提言のありました「水資源の啓発」についてです。

令和3年度の地域振興推進事業費で「安曇野の農業水利施設」を紹介するクリアファイルを作成し、地域学習の場で小学生に配布しています。

また、本年度は、梓川右岸の松本以南一帯における農業水利施設を紹介するクリアファイルを作成し、啓発活動に活用する予定です。

今後も、当地域の疎水等農業資産の役割や歴史的価値について、土地改良区等関係団体と連携し、その重要性を次代へ伝える地域学習に継続して取り組むとともに、パンフレット、Web ページ等様々な媒体を活用して、その魅力を県内外に広く発信してまいります。

6ページをご覧ください。

まず山崎委員から御提言のありました「輸送コストなどのボトルネックの解消」についてです。

この課題は、高収益作物の生産振興及び産地の育成を通じ、付加価値の高い農産物生産の支援に努めてまいります。

また、輸送経費が比較的かからない地消地産も進めてまいります。

続いて、原委員から御提言のありました「ニーズの把握」についてです。

顧客及びマーケットニーズについては、農産物マーケティング室、JA及び市場等と連携して情報収集を図り、現地指導会及びJA各部会研修会等で情報提供に努めてまいります。

続いて、中村委員から御提言のありました「米粉の活用」についてです。

米粉の活用については、6月に農村女性プラン推進モデル事業を活用し、料理講習会を開催しました。

今後も、関係機関、農業者グループ等と協力し、米粉の活用促進のPRに努めてまいります。

同じく、中村委員から御提言のありました「視点を変えた販売」についてです。

この課題については、消費者ニーズの動向を注視し、研修会等を通じて、広く情報提供に努めてまいります。

続いて、三村委員から御提言のありました「風さやかな消費拡大」についてです。

令和3年度の当地域における風さやかな生産状況は、生産面積 321ha、収量 2,082 t で地域に占める割合は、生産面積、収量ともに 4.7%となっています。

今後も研修会等を通じて生産拡大を促すとともに、風さやか推進協議会を中心に、地域イベント等により、消費拡大PRに努めてまいります。

7ページをご覧ください。

原委員から御提言のありました「高密度栽培に対する意識統一」についてです。

この課題については、高密度栽培を推進する際、市場出荷を主目的とした栽培方法であることを生産者に説明するとともに、目的を共有しながら支援してまいります。

同じく原委員から御提言のありました「加工品への提案」についてです。

当地域では、地域6次産業化推進協議会を設置するとともに相談窓口を開設し、相談活動や研修

会を開催しています。

現状では、シャインマスカットやシナノリップは市場単価が高く推移しており、加工に利用される青果は少ない状況もありますが、今後も6次産業化を進める法人等が新たな商品開発に取り組む際、販売戦略の支援に努めてまいります。

また、展示商談会の開催情報を収集・提供するとともに、商談会シートの作成や情報発信など、販路開拓の支援に努めてまいります。

8ページをご覧ください。

中村委員から御提言のありました「新たな品種栽培」についてです。

この課題については、消費者ニーズの動向を注視し、生産者に対してトレンドの情報提供を行うとともに、実践する生産者への支援に努めてまいります。

9ページをご覧ください。

山崎委員から御提言のありました「地消地産」についてです。

この課題については、農産物直売所に対して消費者ニーズの情報を提供するとともに、一般消費者に対して直売所の魅力をホームページ等で広くPRし、直売所の活性化について引き続き支援してまいります。

また、農産物直売所の運営強化と人材育成を図るため、「農産物直売所運営案内人」を派遣し、直売所が抱える課題解決を支援してまいります。

10ページをご覧ください。

村田委員、中村委員から御提言のありました「混住化に伴う農薬散布」についてです。

苦情等については関係機関と連携の上、地域住民及び消費者等に対して、農薬散布についての理解が得られるように努めてまいります。

また、農業者の皆様にも住宅地等で農薬を散布する場合は、声かけなどの配慮をお願いしているところです。

続いて、村田委員から御提言のありました「環境にやさしい農産物」についてです。

国は、2050年を目標として、化学農薬の50%削減、有機農業の面積割合を25%に拡大といった数値を設定したところです。

7月1日に「みどりの食料システム法」が施行され、今後、目標達成に向けた様々な新たな施策・技術が国から示されてくると考えられることから、引き続き国の動向について注視してまいります。

11ページをご覧ください。

降旗委員から御提言のありました「環境対策」についてです。

除草対策としては、労力及び機械が必要となりますが、中耕培土、また生分解性マルチの活用が普及していますので御検討ください。

環境対策の研究については、試験研究機関への要望事項として要望してまいります。

12ページをご覧ください。

三村委員から御提言のありました「新品種開発」についてです。

この課題については、試験研究機関への要望事項として要望してまいります。

同じく三村委員から御提言のありました「温暖化対策」についてです。

試験研究機関では、温暖化に配慮した試験に取り組んでいるところですが、要望事項として要望してまいります。

13ページをご覧ください。

山崎委員から御提言のありました「スマート農業」についてです。

当センターでは、スマート農業技術の現地普及を目的として、「自動運転田植機」「ドローンによる防除管理」「リモコン式草刈機による畦畔管理」「自動給水栓による水管理」など実演会等を開催しています。

今後も、スマート農業の普及拡大に向け、実演会等に取り組んでまいります。

14 ページをご覧ください。

濱委員、中村委員から御提言のありました「農村生活マイスターの活動」についてです。

現在、長野県では、農村女性の行動指針として第6次プランを策定して取り組んでいます。

当地域には2支部ありますが、食育・地産地消活動が中心であり、マイスターの目的である「農村地域の問題解決に女性の立場から取り組む」活動がやや少なくなっています。

組織の活性化を図るため、「女性農業者リーダー」の育成につながる活動の企画立案及び情報発信に努めてまいります。

15 ページをご覧ください。

山崎委員から御提言のありました「SDGsのアイコン表示」についてです。

御提言どおり、県の審議会へ報告しました。

続いて、村田委員から御提言のありました「風食対策」についてです。

風食防止対策については、関係機関で協議会を設置し、防止対策、啓発対策、技術対策に取り組んでいるところです。

防止対策としては、麦の作付けについて引き続き推進します。

また、4月まで被覆面積が確保できるように農家個々に対する計画的な作付け指導を徹底するとともに、効果的な播種方法の検討も引き続き調査研究します。

啓発対策としては、ムギの緑肥効果など、化学肥料の減肥につながることをPRし、作付け意識の高揚に向けた啓発を実施します。

技術対策としては、試験場と連携した技術検討会を開催するとともに、越冬マルチ等被覆試験を実施します。

風食被害防止のため総合的な取組に努めてまいります。

続いて、三村委員から御提言のありました「食肉処理施設」についてです。

この課題について、県では平成31年に長野県食肉流通合理化検討会が設置され、令和3年3月にかけて検討会やワーキンググループ等が開催されました。

また、国との協議を経て、令和3年6月に長野県食肉流通合理化計画が策定されています。

さらに、令和3年9月には長野県食肉施設検討会が設置され、令和4年6月にかけて検討会や作業部会が開催されています。

また、令和4年5月31日に、JAグループ等から、知事に「長野県食肉処理施設の整備について」の要請がありましたが、それに対して知事からは、「同じ方向を向いて取り組んでいきたいと思う」との発言があったところです。

以上、御意見・御提言に対する回答とさせていただきます。

今後も目標達成に向け一層の取組を進めてまいります。

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

ありがとうございました。

ただ今説明のありました第3期長野県食と農業農村振興計画の目標達成に向けた取組についてに対する御質問等がありましたらお願いします。

【上條信太郎 委員（中信平土地改良区連合理事長、長野県梓川土地改良区理事長）】

施設園芸について御回答いただきましたが、ロシアからヨーロッパ方面にエネルギー資源が供給されなくなって、現在どのような状況になっているのか皆さん御存知ですか。

ヨーロッパの園芸は御存知のとおり、科学的に世界最先端を極めていますが、園芸地帯を支える施設が止まっています。

日本でも灯油が高騰している中で、生産者が冬期間にどのような対応をするのかによって、農産物の供給が変化すると思われます。

他県では施設園芸に関する施策と予算がありますが、長野県は国庫事業を活用しても、県としての施策が無いから県の予算が無いのではないかと考えています。

長野県は、高冷地で夏の農産物は競争力がある環境ですが、冬の農産物生産環境が心配です。

施設園芸について、振興方向と予算付けについて、中長期的な効率の良い施設の導入に関する施策を検討していただきたいと思います。

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

ありがとうございました。

上條委員の発言について、事務局の回答をお願いします。

【三田毅（松本農業農村支援センター所長）】

貴重な御意見をありがとうございました。

前回は御提言いただきました「効率の良い施設の導入に関する施策」については、本庁に伝えているところです。

現在は、国の事業を最大限に活用しながら施策展開しているところですが、より危機感を持った取組について本庁と情報を共有し、検討してまいります。

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

我々も協力できる部分は協力してまいりたいと思います。

委員の皆様からまだ御意見があるとは思いますが、次の項目でそれぞれ御意見を伺う予定ですので、あわせて発言をしていただければと思います。

なお、前回欠席された百瀬委員から何か発言があればお願いします。

【百瀬茂敏 委員（農業経営者協会松筑支部長）】

魅力ある農業とか、新規参入とか、6次産業化などピンポイントの施策も大事だと思いますが、このベースとなる農村環境全体の視点で考えていく必要があると思います。

地域全体として、将来の危機感を持っていますので、様々な方面からの御意見を参考にしながら議論に参加したいと思いますので、よろしくをお願いします。



【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

ありがとうございました。

それでは次に移りたいと思います。

続いて会議事項の（２）次期長野県食と農業農村振興計画「松本地域の発展方向」の策定について、事務局から説明をお願いします。

#### ◆会議事項

（２）次期長野県食と農業農村振興計画「松本地域の発展方向」の策定について

【事務局 篠田 資料説明】

松本農業農村支援センター篠田と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは資料２を御用意ください。

１ページをご覧ください。

本日の検討項目です。

これから、松本地域の発展方向（案）について御説明させていただきますので、この項目に着目いただき、それぞれ御意見・御提言をお願いいたします。

２ページをご覧ください。

まず、スローガンについて、現在空欄となっておりますが、後ほど御意見・御提言をお願いします。

続いて、農業農村の特徴です。

前回の部会でお示しした内容と変更はございませんが、後ほど御意見・御提言をお願いします。

なお、グラフにつきましては生産額や農家数等、本庁が一括作成しますのでサンプル画像を掲載してあります。

続いて、めざす姿です。

前回の部会でお示しした内容と変更はございませんが、後ほど御意見・御提言をお願いします。

３ページをご覧ください。

施策の展開方向です。

まず、重点取組１「農業を担う経営体の育成と人材の確保」として、米をはじめ野菜、果樹及び畜産物など、総合供給産地としての体質強化を図るため、市村やＪＡ等と連携して、地域農業のけん引役となる「中核的経営体」の確保に向けて、新規就農者の掘り起こし、集落営農組織の育成、経営体の経営力強化を進めます。と記載しました。

具体的な施策展開として、

○新規就農者の確保及び、栽培技術・経営管理の習得等による育成と地域への定着を支援

○地域計画（人・農地プラン）の推進や、担い手を対象とした支援策の活用等による中核的経営体の確保・育成と経営の安定・発展を支援

と記載しました。

達成指標については、「中核的経営体数」及び「新規就農者数（４９歳以下）」と仮置きしました。

続いて、重点取組２「持続的な農畜産物の生産と安定供給」として、ニーズの高い県オリジナル品種をはじめとする多彩な農畜産物を生産供給するブランド力の高い産地として、引き続きその維持発展を図ります。

さらに、生産性向上や省力化が期待されるスマート農業等、新しい技術を積極的に導入するとともに、環境にやさしい生産方式や生産工程の改善等を目指した取組を一層推進します。と記載しま

した。

4ページをご覧ください。

具体的な施策展開として、

- 環境負荷低減技術、温暖化に対応した生産技術及びスマート農業の拡大を支援
- 県育成品種の生産拡大と品質向上を支援
- 樹園地継承による園地と産地の若返りを推進
- すいか、ながいも、わさび等の地域ブランド品目の生産安定と販路拡大を支援
- 飼養衛生管理の徹底及び危機管理体制の強化
- 信州ブランド魚の安定生産を支援

と記載しました。

達成指標については、「りんご高密度植栽培導入面積」と仮置きしました。

続いて、重点取組3「基盤整備の推進と農地の効率的活用」として、規模拡大や高収益作物への転換等による一層の経営力強化と効率化に向けて、市村等関係機関・団体と連携し、生産基盤の整備・汎用化等を計画的に推進するとともに、農地利用についても更に集積と集約化を進めます。と記載しました。

具体的な施策展開として、

- 営農効率を高めるため、水田の汎用化等の基盤整備を推進
- 水管理の省力化と用水の安定供給のため、長寿命化計画に基づく水利施設の更新を推進
- 地域計画（人・農地プラン）の実現に向けて、農地中間管理事業等による中核的経営体への農地利用の集積・集約を促進

と記載しました。

達成指標については、「農業水利施設の整備箇所数」と仮置きしました。

続いて、重点取組4「安心安全で持続可能な農業・農村の活性化」として、松本地域の農山村において、豊かな風土や地域の特色を活かした農業を維持継承するため、担い手の確保育成、農産物生産や農村コミュニティの活性化等を支援します。

野生鳥獣対策及び、風食対策等市村・JA等と連携して有効な対策を講ずるとともに、気象災害への備えとして、生産者の農業保険制度等への加入促進などを支援します。

集中豪雨や地震が頻発して発生する中、松本地域の農山村において、豪雨対策・地震対策が必要な農業用ため池等施設の耐性評価と防災工事を実施・支援し、災害から暮らしを守る農業農村の強靱化を図ります。と記載しました。

5ページをご覧ください。

具体的な施策展開として、

- 対策が必要な防災重点農業用ため池への地震耐性評価と防災工事の実施
- 農業用ため池の低水管理に伴う雨水貯留による流域治水対策の推進
- 地すべり防止施設等の長寿命化の推進
- 用水路等の維持や農産物生産の継続のほか、住民参加による地域活動の活性化を支援
- 野生鳥獣による被害軽減のための防護柵の設置・管理など地域ぐるみの取組を促進
- 風食対策に向けた緑肥作物等の利用促進
- 荒廃農地の発生防止と再生を進め、需要のある作物生産での活用を推進

と記載しました。

達成指標については、「農業用ため池の防災等対策工事の完了箇所数」と仮置きしました。

続いて、重点取組5「松本地域の食材を活かした地産地消や食育活動の推進」として、地域の消費者や観光客からニーズの高い新鮮で多彩な野菜・果実・養殖魚などやその加工品について、一層の販売促進や情報発信の強化に取り組むとともに、観光業や食品加工業等との連携によりエシカル消費を推進します。

また、「食や農」への関心を高めるため、継続的な食育活動の取組を進めます。と記載しました。

具体的な施策展開として、

- 農産物直売所等の魅力向上と地域食材の持つ物語を情報発信
- 農業体験や地域の食文化の伝承など食育活動を行うグループの育成と活動を支援
- 米粉の利用拡大の推進

と記載しました。

達成指標については、「学校給食における県産食材の利用割合」と仮置きしました。

以上、次期食農計画における松本地域の発展方向（案）について御説明させていただきました。

まず、基本目標（スローガン）について、松本地域はどのようなフレーズがよいか御意見・御提言をお願いします。

続いて、重点取組、具体的な施策展開、施策展開の内容や、表記は資料のとおりでよいか御意見・御提言をお願いします。

最後に、達成指標について、当地域ではどのような指標がよいか御意見・御提言をお願いします。

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

ありがとうございました。

それでは、説明のありました内容について、御意見、御提言をお願いします。

上條委員からお願いします。

【上條信太郎 委員（中信平土地改良区連合理事長、長野県梓川土地改良区理事長）】

スローガンですが、とても悩みます。

新鮮だとか、どこでも使う言葉ではなく、信州から発信するというイメージで。

良いアイデアが出てきませんが、こういうものは専門家に任せるほうが良いと思います。

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

ありがとうございました。

続いて、山崎委員をお願いします。

【山崎岳志 委員（安曇野市農政課長）】

スローガンについてですが、地域のテーマとなるため、御提案いただいた中のどれが良いとは言えませんが、地産地消や農村景観のようなフレーズを入れていただいて、地元の皆さんが農業を守り、支援しているようなイメージが良いと思います。

また、当地域は松本平と安曇野平の2つがありますので、総称した「松本地域」といった表現にしていただければ幸いです。

施策の展開方向については、基本的に網羅されているので良いと思います。

達成指標については、高齢化が直近の課題であると考えています。

また、現在の中心経営体の高齢化を考慮した、若い新規参入者の移住・定住の支援がポイントになると思います。

経営体の育成、人材の確保について、農地の集積集約も大切ですが、新規参入者を支援しながら地域で育てるということも親元就農も含めて取り組む必要があると思います。

農産物の安定供給について、すいか、ながいも、わさびなど地域特産物がありますが、苗や種を他県から購入していることが多く、万が一、供給が止まったことを考慮し、自ら生産することができるよう研究関係も強化していただきたいと思います。

記載の中で、安心安全より安全安心の表現にしたほうが良いと思います。

地産地消について、学校給食を通じて子どもたちに、地域の食材を知ってもらうことは重要なので、是非推進していただきたいと思います。

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

ありがとうございました。

続いて、村田委員お願いします。

【村田鋭太 委員（山形村産業振興課長）】

スローガンの提案を見させていただいき、直感ですが「食を楽しむ、食に感謝、松本新時代、食農革命」というのが良いと感じました。

施策の展開方向については、重点取組2の記載は非常に良いのではないかと思います。

どこの県にもある、似たようなものを栽培して販売するということは、これからは難しいと感じています。

長野県だから栽培できるオリジナルな農産物について、更に生産強化や安定供給により、販路拡大につなげていただきたいと思います。

達成指標にりんごの高密度植が挙げられていますが、この他にも深掘した指標を設定していただくの良いと思います。

暮らしの場としての農村振興に「農業用ため池」の項目が挙げられていますが、最近の異常気象では尋常ではない降雨により、農業用ため池の重要性を感じています。

適切な低水管理などが徹底され、下流に多量の水を流さず、被害を未然に防ぐ姿勢は重要だと思います。

風食対策については、広域全体の課題として位置付けられていて、引き続き連携して取り組んでいきたいと思います。

生産と消費を結ぶ松本の食の展開において、達成目標に「学校給食における県産食材の利用割合」について増やしていきたい旨の記述があります。

地域に住む子供たちに、いかに安全で安心な農産物を供給していくかということを常日頃考えていて、県産食材や地元食材を小中学生が消費することが非常に重要であると感じています。

環境にやさしい農業関連については、先ほど前回の提言に対する回答をいただきました。

環境にやさしい農作物は、まだ流通量が少ないため、流通体系を確立したり、生産者の皆さんの収益につながるような体制を整備し、その生産物を子どもたちが消費するという仕組みが、これからは望ましいのではないかと思います。

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

ありがとうございました。

続いて、原委員お願いします。

【原武彦 委員（松本市公設卸売市場協議会長、(株)R&Cながの青果松本支社長）】

スローガンは苦手な分野ですが、提案されたものはどれも良いと思います。

地域限定的になるよりも、松本地域や中信地区といった全体をとらえたスローガンが良いと思います。

申し訳ありませんが、スローガンは事務局に一任したいと思います。

達成指標については、新規就農や、新たな農産物生産等により農業の活性化を図っていくことが非常に大事であると思います。

「ものづくり日本」と言われるように、日本の品質が世界的に評価されているところがあり、農産物も同様に、生産に当たっては、品質にこだわることにより、評価を得てブランド力や収益につながると思います。

最初の段階として、新規就農者を確保して農業人口を増やし、第2段階として、品質にこだわった商品をつくることへの動機付けが必要であると思います。

これを達成基準とすることは難しいと思いますが、最終的な着地点を見据えた上で目標設定していかないと、先々につながっていかないと感じています。

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

ありがとうございました。

続いて、中村委員お願いします。

【中村洋子 委員（安曇野市農業委員）】

スローガンで、松本農業という表現より、松本地域というか、安曇野も含めた全体的な表現にしていれば良いと思います。

産業としての農業振興の担い手育成の達成指標で「新規就農者 49 歳以下」と記載されていますが、49 歳が妥当なのかは分かりませんが、研修からの就農までの経験や、就農後の経験を積んで経営者として地域で活躍していただきたいと思います。

りんご高密度植栽培については、我が家においても取り組んでいますが、収量が多いことが魅力です。

また、今は「ふじ」以外にも良いりんごがあるということが消費者の皆さんに理解されつつあり、特に若い皆さんは、大きく、見映えが良く、蜜が入っているといたりんごにこだわっていないので、これからは小ぶりの品種がトレンドではないかと思います。

学校給食の県産食材利用については、自校給食の場合であれば実践可能であると思いますが、給食センターの場合、少し難しいかもせれません、なるべく地元産農産物の仕入れについて取り組んでいただきたいと思います。

最後にスローガンですが、「情報は世界から、食べ物は地域から」のようなフレーズが入れば良いと思いました。

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

ありがとうございました。

続いて、降旗委員をお願いします。

【降旗道子 委員（栄養士会中信支部）】

スローガンについて、候補を見させていただき、いずれも良いと思いました。

私の周りでは、環境について意識している人が多く、「持続可能」というフレーズをよく耳にします。私ので、提案いただいた中の「持続可能な農業新時代～継承しよう豊かな食と農～」というスローガンが良いと思いました。

前回の部会で提言した大豆について、松本地域の大豆作付面積が県全体の 43.7%を占めていると教えていただき、ありがとうございました。

頑張って大豆を栽培していただいていることに感謝し、これからも利用していきたいと思います。

生産と消費を結ぶ松本の食の展開に関連しますが、大豆は煮る他に、揚げたりする料理も仲間で試作して、若い皆さんにも食べてもらえるような研究をしています。

今後も続けていきたいと思います。

米粉の利用について、小麦粉を使う料理は必ず小麦粉を使わなくてはいけないと思いがちですが、たまたまその国の料理は、小麦粉が入手しやすいから使うだけで、日本では米粉を使えばいいのではないかと講師先生に教わったことがあります。

料理のとろみ付けにも小麦粉ではなく、米粉を利用するように変えていけば良いと感じます。

皆さんも試されていると思いますが、私たち消費者も意識して米粉の活用を進めていきたいと思っています。

以前、学校給食の現場に携わっていたことがありますが、現在の状況を把握していませんので、情報を収集したいと思います。

【田中部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

ありがとうございました。

続いて、百瀬委員をお願いします。

【百瀬茂敏 委員（農業経営者協会松筑支部長）】

スローガンについては、良い提案がされています。

水が豊かで自然がすばらしいという表現も良いと思いますが、過去3期分のスローガンと類似しない内容で、人が生き生きと活動している農村の姿を感じられる具体的なフレーズを使っただくのが良いと思います。

里親制度等を活用し、新規就農者を積極的に育てることにより、確かな実績として現れていますが、これを持続可能な農業に発展させるための長期ビジョンを明確にする必要があるのではないかと思います。

法人に対しても同様に、持続可能な法人を最後まで支援していくことも重要であると思います。

集落営農については、組合に農地を集積することにより、参加者全員で営農する形態ですが、参加者の年齢層は70、80歳代が主体であり、近い将来、その集落はどうなってしまうのか不安は拭えません。

理想的な達成指標でも良いと思いますが、不安要素も考慮した取組をしていただきたいと思います。

また、将来を見据えた長野県農業というビジョンを描き、指導をしていただくことが、一番大事だと思います。

個人の農家を育てるのも大事ですが、地域の中で農業をどのように振興していくのか仕組みづくりをお願いしたいと思います。

また、経営規模拡大に当たり、基盤整備は欠かせません。

長野県の大きな枠組みの中で農業を再構築していくためには、生産基盤の部分をしっかり整備する方針で推進していただきたいと思います。

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

ありがとうございました。

上條委員、今出された基盤整備関連で何か発言はありますか。

【上條信太郎 委員（中信平土地改良区連合理事長、長野県梓川土地改良区理事長）】

松本地域と北海道のほ場は、広さが全く異なります。

北海道のように、1区画が何十ヘクタールといったほ場において、GPS機能を付けた機械を導入することにより、作業効率の向上や経費削減につながると思います。

将来、こうした機械が効果を発揮できるような基盤整備をする必要があると思います。

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

ありがとうございました。

山崎委員、何か質問があったようですが。

【山崎岳志 委員（安曇野市農政課長）】

環境問題で、緑肥の記載がありますが、労力の効率化のため、一発肥料が利用されています。

しかし、全農から緩効性肥料におけるプラスチック被膜殻の海洋流出防止に向けた取組方針が出され、わたしたちは「2030年にはプラスチックを使用した被覆肥料に頼らない農業に」を理想に掲げ、さらに努力する旨、公表されていますので、それを踏まえ、発展方向の中に記述しても良いのではないかと思います。

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

ありがとうございました。

私から2点ほどお願いします。

まず、人・農地プランで土地の集積、集約について、国の施策として対応をいただいているところですが、これが地域の現状に合っているのか、また農業や生活を守ることができるのか、様々な課題がありますので、応用力を持った柔軟な対応をしていただきたいと思いますというのが1点。

2点目は、前回三村委員から提言のありました食肉処理施設についてです。

現在、畜産業界が疲弊していると感じています。

その中で、みどりの食料システム戦略や有機農業など、循環型農業推進の観点から、食肉処理施

設の位置付けや、運用について御協力をお願いします。

以上それぞれの皆様から御意見、御提言をいただきましたが、三田所長、何か発言がありましたらお願いします。

【三田毅（松本農業農村支援センター所長）】

様々な御意見、御提言をいただき、誠にありがとうございました。

地域として実施できること、また地域と関係機関が一体となって取り組まなければならないことなど、御意見、御提言を踏まえ、検討してまいりたいと思います。

【田中悦郎 部会長（松塩筑安曇農業委員会協議会長、松本市農業委員会会長）】

ありがとうございました。

全体を通して何かございますでしょうか。

委員の皆様には、短時間ではありましたが御意見等をいただきましてありがとうございました。

本日いただきました御意見につきましては、今後の活動に反映されることをお願いしまして、議長を退任させていただきます。

ありがとうございました。

## 5 閉会

【三田毅（松本農業農村支援センター所長）】

田中部会長さんありがとうございました。

委員の皆様には、貴重な御意見、御提言をいただき誠にありがとうございました。

いただいた意見は取りまとめて県の審議会へ報告するとともに、今後の活動に反映していきたいと考えています。

せっかくの機会ですので何かありましたらお願いします。

【上條信太郎 委員（中信平土地改良区連合理事長、長野県梓川土地改良区理事長）】

先ほど提言のありました地産地消について、その時その場に行かなくては食べられないもの、伝統の味があります。

食育で大切なことは、地元農産物のほか「旬」であると思います。

旬な農産物を使った給食を、子どもたちに提供する努力をお願いします。

【三田毅（松本農業農村支援センター所長）】

ありがとうございました。

最後になりましたが、田中部会長はじめ委員皆様方には、大変お忙しいところを御出席いただき、貴重な御意見・御提言をいただきましてありがとうございました。

それでは以上を持ちまして松本地区部会を閉会とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。